

秋田県動物愛護センター（仮称）整備構想案の概要について

～「動物にやさしい秋田」の実現を目指して～

生活衛生課

I 動物愛護管理の現状と課題

- 動物を巡る社会情勢の変化
 - ・心に安らぎを与える伴侶動物としての認識の高まり
 - ・教育、福祉、医療への動物の積極的な関わりについての期待
 - ・動物に関する苦情・相談の複雑・多様化
- 動物愛護の取組等
 - ・動物愛護管理推進計画に基づき取組を進めるも、相当数の殺処分
 - ・「犬猫の殺処分ゼロ」に向けたさらなる取組が必要
- 現動物管理センター
 - ・施設の老朽化
 - ・愛護機能(犬猫収容、ふれあい、ボランティア活動等のスペース)が不十分
 - ※平成2年、秋田市浜田に開設(RC平屋建、延床面積439㎡、敷地面積2,928㎡)



II 動物愛護センター整備の必要性

- 「人と動物が調和しつつ共生する社会の形成」に向けた基本目標の達成を図るため、動物愛護の取組の拠点となる新たな施設を整備

《基本目標》

- ・動物の生命を尊び慈しむ心を養う
- ・動物の正しい飼い方とふれあいの方法を学ぶ
- ・人と動物、動物を介して人と人とが楽しく交流する



殺処分ゼロ

III 動物愛護センターの概要

1 役割、機能、諸室

①動物の命をつなぐ拠点

- 収容動物の譲渡の推進
- 動物の命を大切にす心の醸成
- 地域猫対策等

②体験・学習・交流の拠点

- 動物とのふれあい・県民相互の交流の推進
- 適正飼養の啓発
- 動物取扱業者への指導
- 動物の習性等に関する情報発信

③ボランティア活動の拠点

- 動物ボランティアの育成・スキルアップの推進
- 動物ボランティアの活動促進

④災害対策の拠点

- 災害時における動物の保護・収容
- 災害対応訓練等

⑤「動物にやさしい秋田」の発信拠点

- 秋田犬の飼育・展示
- 地域資源(動物園、水族館、熊牧場等)の活用による情報発信

○譲渡犬猫飼育舎
○マッチングルーム

○診察・手術室
○屋外ふれあい広場(ドッグラン含む)

○シャンプー・トリミング室
○展示・学習・交流コーナー(キャットタワー含む)

○多目的ホール
○ボランティアルーム

○相談室
○災害用備蓄倉庫

2 設置場所等

○設置場所

・秋田市雄和椿川字奥椿岱1番地
(秋田県立中央公園内第1駐車場南側)

※現動物管理センターは、一部改修して活用
(保護・収容、譲渡適性判断等)

＜県立中央公園内に設置した場合に期待される効果等＞

- ・自然が豊かで動物にストレスがかからない。
- ・インターチェンジに近く、県内外からのアクセスが良好
- ・住宅地から離れており、住民生活への影響が軽微
- ・スポーツゾーンや空港等の利用者にも訪れてもらえる。
- ・災害発生時の動物の避難場所等にも活用
- ・国際教養大学との連携により、「動物にやさしい秋田」を海外にも発信

○規模・構造等

- ・建物1,455㎡(木造平屋建)
- ・敷地6,000㎡

※建物の一部にCLT(直交集成板)の導入を検討
※再生可能エネルギー、ユニバーサルデザインを導入
※外観は周辺環境に調和し、親しみやすいものとなるよう配慮
※鳴き声等について近隣に配慮した対策を実施

○整備費

・約9億円

※造成費、インフラ整備費、現動物管理センター改修費等を除く。
※財源として、林野庁や環境省の交付金等の活用を検討

○維持管理費

・2,900万円(年間)
※現動物管理センター分を含む。
職員給与費を除く。

○職員体制

・13名
(獣医師5名、総務1名、技能職員3名、非常勤等4名)
※現動物管理センター分を含む。

○整備スケジュール

・H27年度 整備構想策定
・H28年度 基本・実施設計
・H29～30年度 建設工事等
※開設はH31年度中

○管理運営方法

・指定管理方式も検討
・ボランティア等と協働しながら運営
・土・日曜日、祝日の開所も検討

※ 規模、整備費、維持管理費、職員体制等については、今後設計や詳細を詰めていく中で変動する。